



2013年度のパリアンの目標



医療法人パリアン理事長 川越 厚

「毎朝 10 キロのランニングをして、体力の維持に努めています。」

今年の April 1 も快調な出だしで職員を煙に巻き、パリアンの新しい年度がスタートしました。そんな体に悪いことをやるはずないですよ、念のために。それはさておき、3月に2人の看護師が退職し、4月にはあらたに5名の新人看護師が入职しました。新人と言ってもみな病院では中堅以上のベテランで、パリアンにとっては心強い限りです。カルチャーショックを受けた後の、彼女たちの成長が楽しみです。

パリアンは2000年6月に設立されましたので今年度は14年目にあたりますが、組織としてはまだまだ未熟と言わざるをえません。船長役の私は毎年“年度目標”をかかげ、パリアン丸の現在位置を確認するとともに、これから進む方向を示して来ました。

今年度目標（別掲）の“前文”の前半は、昨年11月にパリアンがNHPCO（全米ホスピス緩和ケア協会）からホスピスとして機関会員認定されたことと関連し、その誇りと責任を胸に秘め、Globalな目を持って日々の仕事にあたっていこう、という“気合い”を表明したものです。パリアンがわが国における在宅ホスピスケアの先駆者として活動してきたことは私たちの秘かな誇りですが、これからもその誇りを大切に、わが国の在宅ホスピスケアをリードしなければならぬと考えています。

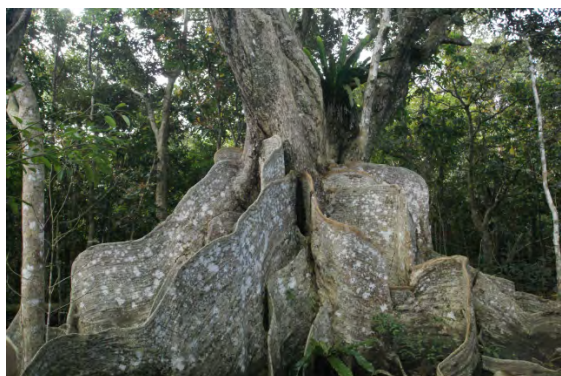
“前文”の後半には、今年度の具体的目標として、チームの更なる成長と、効率よく高品質のサービスを提供するための二つのことを掲げました。

一つは、各専門職の専門性を追求すること。それぞれの専門職の中で役割分担を明確にすること、そして専門職の業務範囲を超えたサービスを提供する場合のルール作りを行うことです。具体的には専門職の“Job description（職務記述書）”を作成することですが、1-3)については僕がたたき台を作らなければならぬと考えています。1-4)の内容は要するに、“ホスピスにおけるもっとも重要な Position（立場・役割）は全体のマネジメントを行う者が担っており、その人がより強力にリーダーシップを発揮できるようにすること”を意味しています。現在その役目を看護部長が担っていますが、彼女のおかげで組織が進化を遂げたことは、悔しいけれども認めざるを得ません。

（2ページへ）



(1ページから)



サキシマスオウノキ 樹齢400年

第二に掲げたことは、現在のパリアンのサービスを効率面でもっともっとブラッシュアップしなければならない、ということです。現在のスタッフで、年間約200名のがん患者の在宅死を実現していることは、確かに特筆に値しますが、僕の日から見てもまだまだ無駄が多く、工夫すべき点が多々あります。個々の専門職、特に看護職の負担を増やすことなく、また、ケアの質を下げることなく、より多くの患者に対応できるようにするためにはどうすればよいか、そのことを組織目標として掲げました。

これまで年度目標が職員にしっかり浸透していなかった反省を踏まえ、今回はこの年度目標に対して各部門がどのように対応するか検討してもらい、全体会でさらに問題を深めて議論したいと考えています。パリアンの今年度の成長を温かく見守ってください。

2013年度の目標

NHPCO (National Hospice and Palliative Care Organization)の会員組織としての誇りと自覚を持ち、日本における在宅ホスピスケアの先駆者としてふさわしいパリアンをめざしていく。

チームアプローチに更なる磨きをかけ、高品質かつ効率的なホスピスケアを提供する。そのために、以下の二つの目標を設定した。

1. チーム構成員の専門性を深化すると共に、職種間の連携強化に努める
 - 1) 各専門職の業務範囲を明確化する
 - 2) 各専門職内の役割分担を明確化する
 - 3) Transdisciplinary (注) チームアプローチが可能となるようなルール作りを行なう
 - 4) ケアコーディネータの機能を強化する

2. 提供するサービスの効率化を図る
 - 1) 業務の無駄を省く
 - 2) 効率化のための工夫を行なう
 - 3) 職種間の連携を強化する

2013年4月1日

医療法人社団パリアン理事長 川越 厚



(注) ここでの Transdisciplinary の意味：「必要があれば自分の専門領域を超えた範囲のケアに参加する」

平成25年度ボランティアの集い開催される

4月20日(土) KFCルーム108とレストラン・メルサで

平成25年度パリアンボランティアの集いが平成25年4月20日(土)午前10時から、東京両国のKFCルーム108で行われた。今年度第1回であるボランティアの集いは、第1部は「ボランティアの集い」、次にクリニック川越副院長・中島一光先生によるパリアン公開講演会に参加し、第2部は場所を変えて昼食会というスペシャルメニューの内容で開催され、ボランティアはもとより参加したパリアンスタッフにとっても大変な盛り上がりの1日であった。

(第1部) 平成25年度第1回ボランティアの集い

今年度も活動が続けるボランティア20数名が集合し、24年度の活動報告と25年度の活動方針や活動計画を決めた。各ボランティアグループ代表が各々の活動報告や新年度への抱負や意気込みを発表し、全員がボランティア登録を済ませてボランティアの集いが終了した。

(第2部) パリアン理事長より感謝をこめた昼食会

レストラン・メルサでボランティアへの感謝をこめた昼食会が行われた。料理に舌鼓を打ちながら、一人ひとりが自己紹介を行い、最後に理事長や看護部長から、ボランティアに対して感謝の挨拶や今後のパリアンの展望についてお話があった。皆でYou Are My Sunshineを合唱し、盛大のうちに終了した。

パリアン公開講演会

中島一光先生(クリニック川越副院長)

「自分らしい最期を迎えるために～あなたは延命治療を希望しますか～」

クリニック川越副院長で、元国立長寿医療研究センター一呼吸器内科医長・緩和ケア診療部長の中島一光先生を迎え、「自分らしい最期を迎えるために～あなたは延命治療を希望しますか～」と題して第1回パリアン公開講演会が開催され、ボランティア、パリアンスタッフ、医療・福祉専門職、医学生、一般の方など80名が参加した。開演に先立ち、川越厚先生による開会のあいさつと中島先生がパリアンにいられた経緯(いきさつ)などが紹



中島一光先生の公開講演会模様

介された。講演は、最近テレビなどでも話題になっている「食べられなくなった時、胃瘻をつけるかどうか」「延命治療を希望するかどうか」という難しいテーマにもかかわらず、中島先生のユーモアたっぷりの語り口でボランティアにもよく理解できるよう、難しい言葉を使わず解かりやすい内容だった。浦島太郎伝説や織田信長行列などの話を交えた講演はあっという間に進み、中島先生の「終末期ケアを行うに当たって、どこで、どのような最期を迎えたいのか、ご本人の希望を聞いて、その人らしく支えるケアを大事にしていきたい。こういうケアをしているのがパリアンです」というメッセージで締めくくられ、参加者からの大きな拍手で終了した。



事務ボランティアの 同行レポート

訪問ボランティア中村さんに同行

2013.4.15(月)は暖かで穏やかな日でした。訪問ボランティアの中村景子さんに同行させていただき、江東区にお住まいのTさん(女性)のお宅を訪問しました。おしゃべりがあまりお好きでないTさん。中村さんが訪問した時に、毎回、五木ひろしの歌を録音したカセットを回してもらい、それを聞くがとても楽しみとのことで、一緒に聞いたり口ずさんだりしました。

一通り聞き終わった後、よい天気なので、Tさんとボランティアと一緒に外に出ました。玄関のすぐ横にヤマブキの花が満開に咲きほこり、花びらに触れたり、しばし花を楽しみました。別れ際、Tさんは同行した私にも、「また来てね」と言って下さり、嬉しい思いで失礼しました。

訪問を終え、中村さんにお話を聞きました。「訪問ボランティアをするに当たって心がけていることは、患者さんや家族に積極的に何かをしようとは思わず、そっと寄り添い、あくまでも患者さん方のペースに合わせてリラックスしていただくことです。互いに緊張せず、近所の人立ち寄り、というような自然な関わりをしていきたいです。患者さんは敏感で繊細です。知らないことは知らない、できないことはできないと正直にお話するようにしています。建前で話したり、いい加減に受け流したり、ごまかしはききません。」と素直に気持ちをお話して下さいました。「万が一、分からないことが起きたり緊急な事態が起きたりしたとしても、看護師さん、先生方とすぐに連絡が取れ、いつでもバックにパリアンが控えていて下さると思うと心強いです」と語って下さった中村さんの言葉が印象的でした。(事務ボランティア 山岸)

伝言板



お待ちかねのパリアン新事業所の起工式が行われる

お待たせしているパリアン新事業所の新築工事が始まった。その起工式が4月26日(金)午前、建設地の墨田区立川で川越厚理事長を始め、パリアン関係者が集まり行われた。式典は曾根原牧師によりキリスト教式で行われた。落成は今年11月頃の予定。

「聞き書き講座 in すみだ」参加応募受付中

墨田区平成25年度在宅緩和ケア事業の一つである「聞き書き講座 in すみだ」が5月18日(土)・6月8日(土) <2日間連続講座>に開催されます。詳細は別添チラシを参照

5月のボランティア活動予定

- ・訪問ボランティア：5月10日(金)午後2時30分～
- ・デイホスピスボランティア：5月10日、17日、24日、31日
- ・手作りボランティア：5月21日(火)午後1時～3時
- ・事務ボランティア：5月18日(土)午前11時30分～



<ミーティング日変更のお知らせ> 命日カードボランティアのミーティング日が、6月から第3木曜日に変更されます。(但し、8月のみ第4木曜日) 行き違いないようにお願いします

5月のデス・カンファレンス、事例検討会の開催予定日

- デスカンファレンス：5月31日(金) 17時～18時
- 事例検討会：5月17日(金) 17時～18時



墨田区 平成25年度在宅緩和ケア事業 がん患者のこころのケア研修

聞き書き講座 in すみだ

「聞き書き」とは【語り手の話を聞き、それをその人の「話し言葉」で書いて、活字にして後世に残すこと】※です。語り手はそれまでの人生で歩んできた道を振り返ることで、これからの日々を生きがい・希望を持って過ごせるようになり、聞き手は語り手をよりよく理解できることが期待されます。不安や心配事を抱えるがん患者さんのこころのケアを深めたい、医療・福祉の専門職やボランティアの方、ぜひご参加ください。

※小田豊二著「聞き書き」をはじめよう(木星舎 2012年)

■日時 平成25年5月18日(土)・6月8日(土)
13:30～15:30 (2日間の連続講座です)

(5月18日)

(6月8日)

■会場 KFCビル 112会議室(11階)・108会議室(10階)
(両国第一ホテル上階 都営地下鉄大江戸線「両国駅」A1出入口直結
JR中央・総武線「両国駅」東口より徒歩約6分)

■講師 小田 豊二先生(作家・日本聞き書き学会講師)

■参加費 無料

■お申込 お名前(複数可)、居住区市、ご職業、代表者電話番号をお書きの上、
下記申し込み先へメールまたはFAXにてお申込みください。

※裏面にFAX用の申し込み用紙があります。

※定員(45名)に達しましたら締め切らせていただきます。

■持ち物 1日目(5/18)に、実際に語り手の方のお話を「聞き書き」する練習をします。
完成させた聞き書き作品を講師の先生にお送りすることで添削していただけますので、
希望者は当日録音機器(レコーダー)またはメモ用の筆記用具をご持参ください。

■お申込・お問合せ

NPO法人すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会あこも 事務局

e-mail : s-sumida@pallium.co.jp

FAX:03-5669-8310 / TEL:03-5669-8302

東京都墨田区両国3-19-5 シュタム両国ビル4階



主催：墨田区

企画・運営：NPO法人すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会あこも

FAX用 申込み用紙

(ペンなどで濃くお書き下さい)

参加ご希望の方は、この申込み用紙にご記入の上、
FAXしていただくか、同じ内容をe-mailでお送りください。

FAX : 03-5669-8310

e-mail : s-sumida@pallium.co.jp

墨田区 平成25年度在宅緩和ケア事業 がん患者のこころのケア研修

聞き書き講座 in すみだ

申込代表者 連絡先	電話番号 : — —	
	FAX番号 : — —	
お名前 (複数可)	居住区市	ご職業
この講座をどこで お知りになりましたか？ 該当する数字に○をご記入ください	1. ポスター(場所:) 2. チラシ(受取先:) 3. その他()	

※お送りいただいた個人情報は、当事業関係のみに使用させていただきます。

会場のご案内

KFCビル (両国第一ホテル上階)

5月18日 112会議室 (11階)

6月 8日 108会議室 (10階)

<電車>

都営地下鉄大江戸線「両国駅」A1出入口直結
JR中央・総武線「両国駅」東口より徒歩約6分

